

企業の目的は何か？【三浦 利幸】(09.03.02)

中期経営計画について考えていると、個々の企業のビジョン、経営理念、そして企業とはそもそも何のためにあるのかという普遍的な問題に突き当たることが少なくない。株式会社の制度においては、企業を所有するのは株主であり、株主のために株価や配当を最大化することが経営の目的とする考え方は正論だろう。しかし現実的には経営の主体は所有者である株主ではなく、経営者である。そして株価や配当の最大化を目指すことは売上や利益などの財務指標を究極の目的とすることとほぼイコールになり、「企業があることによって世の中を幸せにする」ということにはつながりにくいように感じられる。

また顧客満足が究極の目的なのかというと、例えば市場が衰退したときにある事業から撤退したり、ニーズの変化に応じて顧客ターゲットを変更したりすることはよくあることであり、それは経営の舵取りと考えられている。つまり市場や顧客を切り替えて経営していくことが当然ならば、市場や顧客が経営の究極の目的とはいえないだろう。

これは筆者の個人的見解であるが、日本人の一般的な価値観においては、「従業員に、やりがいとプライドを持てる仕事と、それに見合った金銭的報酬を与え続けること」をそれぞれの会社が目指すことが、世の中を最も幸せにするのではないだろうか。

なお、この考え方は労働は苦役であり、少しでも早くリタイアしたいという価値観の社会では成り立たないかもしれない。しかし日本のように生きがいを仕事に見出す人が多い社会では、有効ではないだろうか。

そしてこの考え方においては、次のような条件が付帯してくることになる。

- ・ 顧客に喜ばれる仕事でなければプライドは持てない。
- ・ 社会的な意義のある仕事でなければプライドは持てない。
- ・ 倫理観を欠く仕事にはプライドは持てない。
- ・ 使命感のある事業はプライドを高める。
- ・ 達成したい目標のない仕事にはやりがいを持ってない。
- ・ 売上、利益が上がらなければ金銭的報酬が出せず、続けられもしない。

これらの条件をすべてひっくるめてしまえば当たり前の内容になってしまうが、従業員を第一に考えるという優先順位がポイントである。少なくとも売上や利益を究極の目的とする企業とは、経営判断が異なることが少なからずあるだろう。

株主に対しては、利息をつけて負債を返済するが如く、投資に見合うだけの配当を行えばよいのではないだろうか。株価に関しては、上場廃止になったり企業をつぶしたりしない限りは、過度に気にしなくても済む経営が理想だろう。

それから一部の会社には従業員より優先すべき使命感があるかもしれないが、それを否定するつもりはない。ただしそこまでの使命感を持っている企業は、現実には極少数だと

みている。

以上、個人的見解、かつまだ十分に体系化・熟成されていない段階であるが、関係諸氏のご意見等を頂きながらまとめていきたいと考えている。

以上